

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S4 #16 Top 10 Japanese Songs: Hotaru no hikari/The Glow of Fireflies

CONTENTS

- 2 Kanji
- 2 Kana
- 3 Romanization
- 4 English
- 5 Vocabulary
- 6 Sample Sentences
- 7 Grammar

16

KANJI

1. 蛍の光
2. 卒業式や年の瀬に歌われるだけでなく、図書館などの公共施設や商業施設で、閉館・閉店時間を知らせる曲として耳にする『蛍の光』。
3. あまりにも日本人に馴染み深い曲なので、日本で生まれたメロディだと思っている人が多いのですが、実はスコットランド民謡が原曲。さらに、歌詞も一番は中国の故事に由来していると聞くと、意外に感じる人もいます。
4. 背景を補い、一番と二番の歌詞を紹介しますね。
5. 昔の中国に、貧しくても懸命に勉学に励んで立身出世を遂げた二人の人物がいました。一人は夏の夜に蛍を集めて、もう一人は冬の夜に窓辺に積もった雪を頼りに、それぞれほのかな明かりで勉強したそうです。そんな二人のように、私たちも苦労して書物を読む月日を重ねてきました。そうしているうちに、いつの間にか年が過ぎ、それぞれの道を進む時期を迎えたのです。まさに今朝、杉の木でできた扉を開けて、未来に向かって別れていきます。
6. 学び舎のある故郷に残る人も、あるいは故郷を離れ違う土地に移る人も、今日を最後にお別れです。そんな私たちの胸中にはお互いに幾千、幾万もの様々な思いが溢れています。その思いを一言で表すなら「どうかお幸せに」。相手の無事を祈り、歌うのです。
7. 1881年（明治14年）、昔の小学校の教科書に掲載されて以降、口ずさんだことがないという人を探すのが難しいくらい有名な曲になりました。

KANA

1. ほたるのひかり

CONT'D OVER

2. そつぎょうしき や としのせ に うたわれる だけでなく、としょかんなどの こうきょうしせつ や しょうぎょうしせつ で、へいかん・へいてんじかん を しらせる きよく として みみにする 『ほたる の ひかり』。
3. あまりにも にほんじん に なじみふかい きよくな ので、にほん で うまれた メロディ だ と おもっている ひと が おおい の ですが、じつ は スコットランド みんよう が げんきよく。さらに、かしも いちばん は ちゅうごく の こじ に ゆらい している と きくと、いがいにかんじる ひとも いる ほど です。
4. はいけい を おぎない、いちばん と にばん の かし を しょうかい します ね。
5. むかしの ちゅうごく に、まず しくても けんめい に べんがく に はげん で りっしん しゅつせ を とげた ふたり の じんぶつ が いました。ひとり は なつ の よる に ほたる を あつめて、もう ひとり は ふゆ の よる に まどべ に つもった ゆき を たよりに、それぞれ ほのか な あかり で べんきょう した そう です。そんな ふたり の ように、わたしたち も ころうして しょもつ を よむつきひ を かせね て きました。そう している うちに、いつのまにか とし が すぎ、それぞれ の みち を すすむ じき を むかえた の です。まさ に けさ、すぎのき で できた とびら を あけて、みらい に むかっ て わかっ て いきます。
6. まなびや の ある こきょう に のこる ひとも、ある いは こきょう を はなれ ちがう と ちに うつる ひとも、きょう を さいご に おわかれ です。そんな わたしたち の きょう ちゅう に は おたがいに いく せん、いく まん もの さまざま な おもい が あふれ ています。その おもい を ひとこと で あらわす なら 「どうか おしあわせ に」。あいて の ぶじ を いのり、うたう の です。
7. せん は っぴゃく はちじゅういちねん (めいじじゅうよねん)、むかしの しょうがっこう の きょうか しょ に けいさい されて いこう、くちずさん だ こと が ない という ひと を さがす の が むずかしい くらい ゆうめい な きよく に なりました。

ROMANIZATION

CONT'D OVER

1. Hotaru no Hikari
2. Sotsugyōshiki ya toshinose ni utawareru dake de naku, toshokan nado no kōkyōshisetsu ya shōgyō shisetsu de, heikan, heiten jikan o shiraseru kyoku to shite mimi ni suru "hotaru no hikari".
3. Amari ni mo nihonjin ni najimibukai kyoku na node, nihon de umareta merodi da to omotte iru hito ga ōi no desu ga, jitsu wa sukottorando minyō ga genkyoku. Sara ni, kashi mo ichi-ban wa chūgoku no koji ni yurai shite iru to kiku to, igai ni kanjiru hito mo iru hodo desu.
4. Haikei o oginai, ichi-ban to ni-ban no kashi o shōkai shimasu ne.
5. Mukashi no chūgoku ni, mazushiku temo kenmei ni bengaku ni hagen de risshinshusse o togeta futari no jinbutsu ga imashita. Hitori wa natsu no yoru ni hotaru o atsumete, mō hitori wa fuyu no yoru ni madobe ni tsumotta yuki o tayori ni, sorezore honoka na akari de benkyō shita sō desu. Son'na futari no yō ni, watashitachi mo kurō shite shomotsu o yomu tsukihi o kasanete kimashita. Sō shite iru uchi ni, itsu no ma ni ka toshi ga sugi, sorezore no michi o susumu jiki o mukaeta no desu. Masa ni kesa, sugi no ki de dekita tobira o akete, mirai ni mukatte wakarete ikimasu.
6. Manabiya no aru kokyō ni nokoru hito mo, arui wa kokyō o hanare chigau tochi ni utsuru hito mo, kyō o saigo ni o-wakare desu. Son'na watashitachi no kyōchū ni wa o-tagai ni ikusen, ikuman mo no samazama na omoi ga afurete imasu. Sono omoi o hitokoto de arawasu nara "dōka o-shiawase ni". Aite no buji o inori, utau no desu.
7. Sen happyaku hachi-jū ichi-nen (meiji jū yo-nen), mukashi no shōgakkō no kyōkasho ni keisai sarete ikō, kuchizusanda koto ga nai to iu hito o sagasu no ga muzukashii kurai yūmei na kyoku ni narimashita.

ENGLISH

1. The Glow of Fireflies

CONT'D OVER

2. Not only sung at graduation ceremonies or at the end of the year, you can also often hear "The Glow of Fireflies" in public facilities such as libraries or shopping centers when they close for the night.
3. This is a song with which Japanese people are extremely familiar, to the extent that there are many who think that it is a native Japanese song, but in fact the original melody comes from a Scottish folk song. There are also those who are surprised to hear that on top of this, the first verse of the lyrics is derived from Chinese history.
4. Having given you the background, I'll introduce you to the first and second verses.
5. A long time ago in China, there were two men who, despite being poor, devoted themselves wholeheartedly to the pursuit of knowledge and achieved worldly success. In order to have some faint light by which to study, one gathered fireflies on a summer night, while the other depended on the snow that had piled up by his window. Just like those two men, we have also worked hard, spending the days up until now in reading. And in the middle of that, suddenly the year is at an end, and now it is time for us to go our separate ways. This very morning, we open the door made of cedar wood, face the future, and bid each other farewell.
6. Those who are left behind in their hometowns where the school buildings are located, as well as those who have left their home towns to move to other places; today is the final parting. Our hearts now overflow with however many thousand, tens of thousands of emotions toward both. If we were to put those emotions into one phrase, it would be "be happy." Praying for each other's safety, we sing this song.
7. Ever since it was printed in an old elementary school children's textbook in 1881 ("Meiji 14"), this song has become so famous that it became hard to find someone who has never sung it.

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
馴染み深い	なじみぶかい	najimibukai	very familiar, very well-acquainted

励む	はげむ	hagemu	to strive, to make an effort
由来	ゆらい	yurai	origin, source, history
立身出世	りっしんしゅっせ	risshinshusse	social success
故事	こじ	koji	historical fact
公共施設	こうきょうしせつ	kōkyō shisetsu	public facilities
年の瀬	としのせ	toshi no se	the year end
商業施設	しょうぎょうしせつ	shōgyō shisetsu	commercial building
民謡	みんよう	min'yō	folk song
溢れる	あふれる	afureru	to flood, to overflow, to brim over

SAMPLE SENTENCES

<p>久しぶりにアメリカに帰った時には、馴染み深い場所に行きたい。 <i>Hisashiburi ni amerika ni kaetta toki ni wa najimibukai basho ni ikitai.</i></p> <p>When I return to the U.S. after a long time away, I want to go to very familiar places.</p>	<p>息子は、毎日勉強に励んでいる。 <i>Musuko wa mainichi bengaku ni hagende iru.</i></p> <p>My son devotes himself to studying every day.</p>
<p>あなたの名前の由来は何ですか。 <i>Anata no namae no yurai wa nan desu ka.</i></p> <p>What's the origin of your name?</p>	<p>立身出世のために努力を惜しまない。 <i>Risshinshusse no tame ni doryoku o oshimanai.</i></p> <p>I do not spare any effort to achieve social success.</p>
<p>彼は、歴史上の人物にまつわる故事をたくさん知っている。 <i>Kare wa rekishijō no jinbutsu ni matsuwaru koji o takusan shitte iru.</i></p> <p>He knows a lot about historical events involving famous figures.</p>	<p>この区にある公共施設の使い方を教えてください。 <i>Kono ku ni aru kōkyō shisetsu no tsukaikata o oshiete kudasai.</i></p> <p>Could you tell me how to use public facilities in this ward?</p>

<p>気づいたらもうあっという間に年の瀬だ。 Kizuitara mō atto iu ma ni toshi no se da.</p> <p>I just realized that it's already the end of the year.</p>	<p>この地域には、商業施設が多い。 Kono chiiki ni wa shōgyō shisetsu ga ōi.</p> <p>This area has many commercial buildings.</p>
<p>民謡を子供の頃から聞いていた。 Min'yō o kodomo no koro kara kiite ita.</p> <p>I've been listening to folk songs ever since I was a child.</p>	<p>彼の頭はたくさんのアイデアで溢れている。 Kare no atama wa takusan no aidea de afurete iru.</p> <p>His brain is overflowing with ideas.</p>

GRAMMAR

Natsuko: オーディオブログ第4シーズン第16課 「蛍の光」

Yuichi: こんにちは ゆういちです

Natsuko: なつこです。今回取り上げる歌は？ **Yuichi:** 「蛍の光」です。

Natsuko: 別れの場面で歌われることの多いこの「蛍の光」ですけど、メロディーがスコットランド民謡がオリジナルだったって、ゆういちさんはご存知でした？

Yuichi: 全く知らなかったです

Natsuko: 知らないですよ

Yuichi: これ本当か？と思って僕、その後グーグルで調べてしまいました。

Natsuko: さすが。

Yuichi: そしたらですね、新しい情報が入りまして、ギネスブックありますよね。

Natsuko: はい。

Yuichi: ギネスブックによると、英語の歌でこの「蛍の光」っていうのは世界で3番目によく知られているそうです。

Natsuko: すごく世界的にもポピュラーな歌だったんですね。

Yuichi: そうみたいです。

Natsuko: 日本だけじゃないんですね。

Yuichi: また新しい発見がありました。

Natsuko: すごいですね。ちなみに一番知られている歌は？

Yuichi: 「ハッピーバースデー」

Natsuko: 納得。なるほど。ゆういちさんは、この歌を歌ったことはありますか？

Yuichi: 実は、ないんです。

Natsuko: そうなんですか。

Yuichi: 何度も聞いたことはあるんですけども、自分で歌詞にのせて歌ったっていうのはないんですよね。

Natsuko: そうですか。意外ですね。

Yuichi: なつこさんはどうですか？

Natsuko: 私はたぶん卒業式とかで何度か歌ったことがあると思います。

Yuichi: そうですか。

Natsuko: 正確にいつだって覚えてないんですけど。音楽の授業で習ったと思うので。

Yuichi: この歌詞って結構難しいですよ？この歌を歌ったときって、きちんと意味を理解してましたか？

Natsuko: いいえ。たぶん理解してないで歌っていますね。

Yuichi: 実は今回、蛍の光の歌詞をプリントアウトして持ってきました。

Natsuko: さすがゆういちさん。

Yuichi: すみませんが、読んでもらって、いいでしょうか？

Natsuko: 読むだけでいいんですよね？

Yuichi: 歌ってもらってもかまいませんけど。

Natsuko: いえいえ、それはちょっと遠慮しておきます。みなさんに間違っただけの情報を与えてしまうといけませんので。でも、これ、オーディオ・ブログで読んでも大丈夫なんですか？著作権とか問題になりませんか？

Yuichi: 大丈夫です。なんとこの歌は著作権が切れています。

Natsuko: 古い歌ですからね。それを聞いて安心しました。じゃ、早速読みます。

蛍の光、窓の雪、

ふみ読む月日、重ねつつ、

いつしか年も、杉の戸を、

明けてぞ今朝は、別れゆく。

・・・うーん。これだけ聞くとなんのこっちゃ・・・って感じでやっぱり良くわかりませんよね。最後の「別れ行く」があるから「別れの歌かな～」ってかろうじてわかるくらいですね。

Yuichi: 最後にね。この歌は歌詞が結構難しいので、リスナーの皆さん、もう一度聞いてみて確認してもらいたいですね。特に、一番最初の「蛍の光窓の雪」なんて、ブログで紹介してある中国の故事を知らないと全然分からないですね。

Natsuko: 卒業式なんかで歌うときは、三月なのになんで夏の話と冬の話なんだろうとかって思っちゃいますよね。卒業式なんかでこの歌を歌ってる小学生は、授業で先生に聞いて、歌の全体の意味はなんとなく知っているという方が多いかもしれませんが、細かいところまで理解するのはちょっと難しいでしょうね。

Yuichi: そうですね。蛍を見たことのない都会の子もたくさんいたりしますからね。

Natsuko:そもそも、苦学する・・・つまり、苦勞して勉強する・・・というコンセプト自体が現代の日本では伝わりにくくなってきているかもしれません。ま、それは大変ありがたいことでもあるんですけどね。

Yuichi:卒業式以外にも日本では、デパート、図書館、博物館といった施設が閉まる時にも聞く事ができますね。

(のりさんに音源があれば入れるように伝えてください) どんな感じのメロディーかっていうと...こんな、メロディーです。

Natsuko:よく聞きますよね

Yuichi:これは蛍の曲をアレンジして作った「別れのワルツ」という曲だそうですけど。

Natsuko:歌詞はのってないですもんね。「終わりですからもう出て行ってください」とは直接言いにくいので、「もうお別れの時間ですよ～」とやんわりと告げているところは日本らしい文化ですよ。

Yuichi:大体、閉店の15分ぐらい前にこのメロディーを流すんですよね。日本ぽいですけど、海外だとどうなんでしょうね？閉店の時に流す音楽と違ってあるんですかね。日本人だと、このメロディーを聴くと、「あ、もう終わりなんだ・・・早く出なくちゃ」ってわかるんですけど…。

Natsuko:なんだか寂しい気持ちになってきちゃうんですよね。いい質問です、それ。是非リスナーの皆さんに各国にあるかどうか教えて頂きましょう。

Yuichi:はい、そうしましょう。もしかしたら「蛍の光」だったりして・・・

Natsuko:すごいですね、そしたら。みなさんの国ではどうですか。商業施設や公共施設を閉める時に流す特別な曲は決まっていますか。是非あればコメント欄で教えてください。

Yuichi:それでは、今回はここまで。 **Natsuko:**それじゃまた。